

子どもの心に寄り添いながら

非認知能力を育むには

今年も保育園のすぐ側を流れる天地川の上を大小さまざま、色とりどりの鯉のぼりが泳いでいます。先日、ボランティアの方に声をかけていただき、鯉のぼりを紐につけたり、鯉のぼりに絵を描いたりする経験をさせていただきました。

新年度がスタートし、子どもたちは新しい環境に少し戸惑いながらも園庭や保育室で自分の好きなあそびを見つけて元気に過ごしています。

ある日のこと、園庭へ出かけようと靴を履く準備をしていた2歳児のAちゃんが泣いているので、抱っこして「お外に行ったら鯉のぼりが見えるかね？行ってみようね。」と話しているうちに、気持ちが切り替わったのか笑顔になりました。

その様子を見ていたBちゃんが靴を履きながら泣きまねを始めたのです。きっと自分も抱っこして欲しかったのでしょう。「自分でなんでもやりたい」という気持ちと、「まだ甘えたい」という気持ちが同時に混在する時期なので、Bちゃんの気持ちを読み取り、タイミングよく声をかけました。自分のことは自分でと自立を促すときと、甘えたい気持ちを受け入れるには、普段からその子の言動に注意をはらい、「この子は今どうしたいんだろう」と気持ちを汲み取ることが大切になります。

年長・年中児のクラスでは、4月当初より素材や廃材を使ったの製作あそびが盛んですが、子どもたちから「おみせやさんがやってみたい」の声が出たので、その準備には何が要るのかななどを、子どもたちと話し合いをしました。お店に出す品物を作ることが楽しいというところから自分たち以外の人に品物を見てもらいたい、買ってもらいたい、喜んで欲しいという気持ちが芽生えていきました。品物づくりに取り組んでいる表情も良かったのですが、お店屋さんになって「これいかがですか？おいしいですよ」などお客さんとのやり取りをするときの姿は本当に楽しそうでした。

保育園では0歳から6歳までの子どもたちがあそびを通していろいろなことを楽しみながら学び、成長していきます。これには、赤ちゃんの頃から驚きや感動、楽しさの中で大人に対する安心感や信頼感のもとに人が好きになることが基本になりますが、人と関わることで「あんなことやってみたいな」という好奇心が芽生え、自分の好きなあそびを選び、夢中になって遊んでいるうちに、友だちと考えたり工夫したりしながら「非認知能力」と言われる「くじけない心」「想像する力」「コミュニケーション力」「問題を見つけたり、解決する力」「行動する力」「やり抜く力」「我慢する力」など目に見えない力を身につけてゆきます。「非認知能力」という目に見えない力を身につけることは、難しいようですが、ごっこあそびなど日常のあそびの中で、友だちとやりとりを楽しんだり、時にはトラブルの中で身につける、言うならば「生きる力」のことです。

子どもたちはこの「非認知能力」を使って自分のことは自分で決められる主体性や学校での「学びに向かう力」を身につけます。主体性を伸ばすには、ご家庭でのお子さんへの接し方が重要です。今回は主体性についてお話しいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染状況は広島県においても増加傾向にあります。家庭内感染も増えています。今度の変異株は感染力が強く、子どもたちにも感染しやすい特性を持っています。今までと同様、ご家庭でも感染予防対策を徹底していただきますようお願い致します。お忙しい中、健康観察表の記入をしていただいておりますが、お休みの間も体温、体調のチェックや記録をし、ご家族の健康観察の記録も合わせてご協力ください。

新緑の美しい時期を迎え、自然の中で体を動かしたり、夏野菜を植えたり、子どもたちのあそびが学びとなるように、楽しい保育を工夫していきたいと思っております。

園長

環境が変わると

あそびも変わる ～園庭編～



井戸の工事が始まり砂場付近のものが大移動・・・すると今までとはちがうあそびがはじまりはじまり～



天地川の上を泳ぐ鯉のぼりを見ながら「つくってみよう」と夢中でペタペタ・じろじろ

水があるところにあつまる あつまる

食べることは楽しいこと

食べることは生きること～地域の方との関わりの中で～



畑でスナップえんどうの収穫「まめにおいがするね」



皮がかたくて食べれない豆に「おえかきしたーい」の声



たまねぎとひっぱりっこ！おじちゃんてつだって～

こいのぼりのお話

鯉は古くから立身出世の象徴とされてきました。中国の故事・伝説から「黄河の上流にある龍門の急流をさかのぼることができた鯉は、龍になって天をかける」と言われ、出世のたとえに用いられるようになりました。日本において鯉が縁起物とされたのは、江戸時代中期といわれています。五色の吹流しは、幼子の無事な成長を願って「魔よけ」の意味で飾られるようになりました。

参照

～鯉のぼりと五色の吹流しのお話～



お誕生日おめでとう



保育園では毎月誕生会があり、その月の誕生児をみんなの前でお祝いします。自分の名前や「〇〇歳になりました」と言うことが嬉しかったり、恥ずかしかったり・・・。

お家の方からもメッセージを頂いていますがお子さんの成長を振り返ったり、元気で大きくなって欲しいというねがいが書かれています。

生命の誕生は、生まれた日より10か月も前であることに関心を持ってみましょう。お母さんのお腹の中で過ごした10か月、家族が楽しみに待っていた10か月、そして出産の時のことなどを語ってあげてください。そんな心のふれあいは自分が大切にされ、愛されていることを感じ、命の大切さ、自分自身を大切にできる人間になることの基盤になると思います。